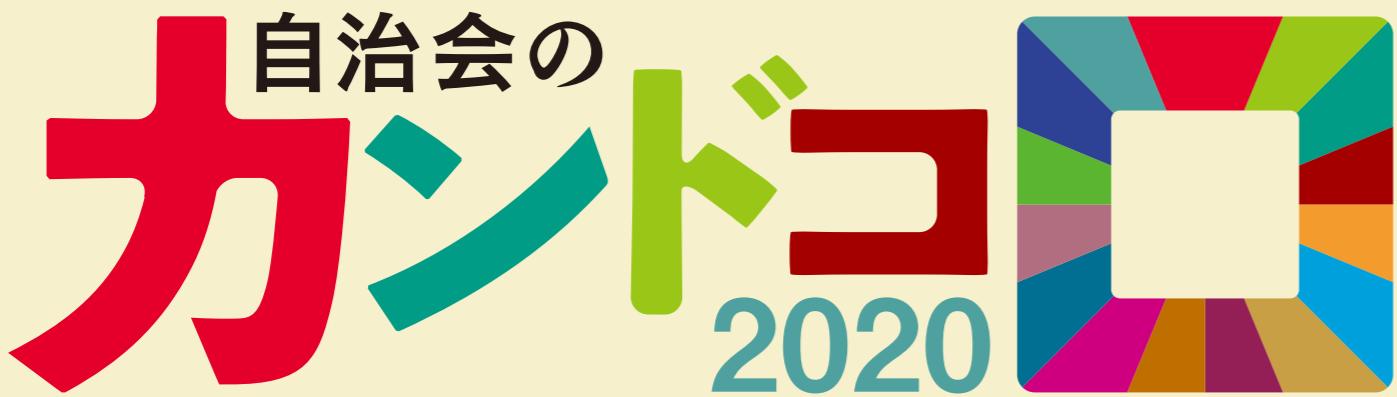


宮城県内の取り組み好事例を集めました

明日からマネしたくなる
自治会運営15選



＼取り入れたい！上手な自治会運営の仕方／



- | | | | | |
|-----------------|------------------|---------------------|-----------------|------------------|
| ① 参加者を増やしたい
 | ② 関心をもってもらう
 | ③ 活動資金がない
 | ④ 加入者を増やしたい
 | ⑤ 役員の負担が大きい
 |
| ⑥ 行事の棚卸の仕方
 | ⑦ 役員の高齢化、長期化
 | ⑧ 女性、若い世代の参加を促す
 | ⑨ 担い手がない
 | ⑩ 相談ごとが多くすぎる
 |
| ⑪ 生活の足がない
 | ⑫ 見守り体制づくり
 | ⑬ 既存・新住民の融和
 | ⑭ 戸建て・集合の融和
 | ⑮ 後任者選び
 |

明日からマネしたくなる
自治会運営15選



2020年11月発行

デザイン

&name / satton design

取材・協力

特定非営利活動法人おおさき地域創造研究会

一般社団法人東北まちラボ

合同会社まちづくりプランニング

田上 琢磨

小山 瞳史
(順不同)

協力

宮城県内の自治会の皆様



「5」のつく日。JCBで復興支援

制作

一般社団法人みやぎ連携復興センター

〒980-0014 宮城県仙台市青葉区本町3-1-17やまふくビル3階

電話022-748-4550 FAX022-748-4552

MAIL:info@renpuku.org

URL:https://www.renpuku.org/

この冊子は、公益社団法人日本フランソロピー協会の「フランソロピー銀行」を通じ、「5」のつく日。JCBで復興支援からの寄付金を活用して作成しました。

『自治会運営のカンドコロ』について

上手な合意形成について

運営が安定している自治会は、合意形成をしっかりと行っています。定期的に話し合いの場を設け議題を共有し、会議の結果は広報誌等を通じて住民全体に共有を図っています。“自分たちのまち”への想いがあるからこそ初顔合わせのときから話し合い、また、日々の挨拶など地道な関係性づくりをされています。2つの自治会の役員の方々にお話を伺いました。



あおい地区会（東松島市）

■地区会プロフィール

あおい地区は防災集団移転地区として整備がすすめられ、平成26年10月に先行入居が始まりました。あおい地区会はあおい一丁目、二丁目、三丁目自治会の連合会として平成28年4月に発足しました。現在581世帯が加入しています。

左から事務局長の土井輝一さん、会長の小野竹一さん、事務局員の木村恵子さん



第一吉野会（石巻市）

■自治会プロフィール

第一吉野会は昭和30年代に発足しました。旧来の自治会は38世帯でしたが、平成27年4月に市営吉野町復興住宅が完成し、145世帯が入居して183世帯になりました。地区内には国道398号が走っており、商工サービス業と住宅地が入り混じっています。

左から副会長の滝沢芳治郎さん、会長の石森峻さん

東日本大震災からの復興に向けて、災害公営住宅等の建設に伴って出来た新しい自治会や災害公営住宅等の住民を受け入れた既存の自治会では、補助金や支援者の力づけで住民による主体的な地域コミュニティ活動が行われてきております。

言うまでもなく、自治会は地域づくりの最も根幹をなす組織であり、互助組織として永続的な活動が不可欠ですが、自律的な運営をするためには、自治会のスタートアップをサポートする公的機関の補助金等に加えて、住民自身が課題解決に取り組むノウハウと組織力が必要とされています。

復興による住宅再建でできた地域コミュニティは、従来のそれとは違い、短期間で初めて会う人たち同士で、互助・共助の関係性をコミュニティ内に築く必要があります。これは震災復興のコミュニティ形成の特徴と言え、従来のコミュニティ形成のノウハウでは解決できないこともあります。

その状況下にあっても、アイデアを出し合い、合意形成をしながら、また、支援団体や行政などの公的機関とも連携を図りながら成果を上げている自治会がいくつも生まれています。

本冊子は、特に震災復興に起因する地域コミュニティ形成（自治会運営）における、宮城県内の各自治会の皆様のご尽力の賜物としてのノウハウを詰め込んだものとなっています。身近なアイデア、先行事例を集約していますので、今、課題と感じがあれば、マネしてみるのもよし、アドバイスを聞きに行くのもよし、自治会運営のヒントとして活用していただくための一冊です。

また、住民主体の地域経営のノウハウなど、将来にわたって持続できる地域コミュニティ形成の一助となることを願っています。

一般社団法人みやぎ連携復興センター



「日本一のまちをつくる」という目的意識を共有することでのひとつに

入居前からの交流で早い段階で住民同士が顔見知りになる

東日本大震災の被災地の防災団体移転区域として整備が進められたあおい地区は、東松島市内で被災した各地域から入居希望者が集まりました。入居希望者は大曲浜地区の住民が大半でした。が、皆で今後のまちづくりや自治会の運営を考えたときに、大曲浜地区的意見ややり方をここで押し通すことは避けなければならぬと決めました。人数の少ない地区的住民の考え方を取りこぼさないようにするためです。行政による地区的整備に先んじて、入居希望者を集めて交流

会を実施しました。その結果として、地区の整備が始まるとから入居希望者の顔合わせを行うことができ、そこでまちづくりのルールづくりを話し合いました。

住民ワークショップを行い、課題を抽出し、その中で検討すべき課題を役員会で議論し、総会で決定します。総会の欠席者については、議決権行使書を提出してもらい、議題ごとに書面で賛否を表明してもらっています。その後、総会や役員会の議事は隔月発行のまちづくり通信によって全世帯に周知しています。以前、欠席者から「聞いていない」との声があがつたこともあります。が、他の住民さんから「ちゃんと

広報誌に書いてあった。読んでないのか?」とフォローが入る一幕もありました。全世帯への報告を徹底したきた産物です。

後から転入された人もうなづきやすいよう、行事等の案内は必ず出しています。また、3か所にある集会所のどこに顔を出してもらつていいこともお伝えしています。



あおい地区会のバッジ。
パトロールなども行っている



全世帯に配布された見守り部会による呼びかけ、緊急連絡先の用紙



住まいのまちなみコンクールで住まいのまちなみ賞を受賞



【合意形成のコツ】
反対意見も想定して説明し、広報誌に必ず載せて周知する

役員が住民の意見を聞き出す という姿勢でさまざまな意見を拾う

あいさつから始める ご近所との関係づくり

平成27年4月に町内に市営吉野町復興住宅が完成しました。石巻市の方針に則り、事前に第吉野会で入居準備の話を聞いていたこともあって、第一吉野会に編入することになりました。

平成27年は旧来の町内会と団地会(復興住宅の管理組合)でそれぞれ活動をしていましたが、平成28年からは旧来の町内会から各部会の部長、団地会から副部長を選ぶようになりました。平成29年からは旧来の町内会と団地会が一緒に活動

するようになりました。旧来の自治会と団地会は比較的早くから一緒に活動をしていました。補助金も旧来の自治会と団地会の交流に使うなどの工夫もしていました。

定期清掃や資源回収、カラオケサークル、園芸サークルなど各種活動をしています(自粛中の活動もあり)。カラオケサークルは復興住宅内の集会所で住民が集まってカラオケを楽しんでおり、園芸サークルではハナミズキや枝垂桜を植えており、樹木が生長し花が咲くのを楽しみにしています。

当初は反対意見もありますが、徐々に理解されるようになります。現在では違う意見があつたら、自治会長や副会長に直接話をすると、なつてあります。行事に参加してもうつたら「気づいたことは何でも言つて」と声をかけます。普段から挨拶を交わす中で垣根ははらわれます。うまく意見を言えない人でもメモとか字ならといふ人もいるようです。今後は取り入れたいですね。やはり普段からの挨拶、声掛けが一番大事です。



集会所の中にある掲示板でも情報共有を行っている



集会所脇には屋根付きのスペースもあり、天気の良いは憩いの場に



住民の要望を受けて園芸サークルの有志で植樹なども手掛ける

【合意形成のコツ】 反対意見も役員が住民から しっかり聞き取りする

第一吉野会 石森 峻 会長



目次

- P2 卷頭特集～まちづくりのすべての基本はここから～合意形成～
- P6 自治会行事の参加者が少ない。どうしたら増やせる?
- P8 転入して来られた人が町内に馴染んでいない。関心を持たれない
- P10 行事をしたいがお金がない。資金調達の方法は?
- P12 自治会未加入者が少くない。自治会の意義を分かってもらえない
- P14 役員負担が大きく、疲弊している
- P16 行事の整理ができない。行事を減らしたいができない
- P18 役員の高齢化・長期化問題。
一度受けたら簡単には抜けられないと思われている
- P20 女性や若い世帯の関心が薄い
- P22 担い手がない
- P24 なんでもかんでも自治会に要望が来る
- P26 高齢者で生活の足がない
- P28 独居高齢者が多い。見守り体制はどうしたらよいか
- P30 既存住民と新規住民が分離している。融和して欲しい
- P32 復興住宅の人と戸建て住宅の人との交流がうまくいかない
- P34 後継者選びが大変。どういう人がなるといいのか
- P36 (付録)コロナ禍における自治会活動の工夫事例



基礎 ①

自治会行事の 参加者が少ない。

どうしたら増やせる?

早く全員の顔が見える関係性を築きたいと思って行事を行つても参加する人が少なく、いつも同じ顔ぶれになりがち。いっぱい来てもらう良い方法を教えて。

仲良しグループなど 行事への参加を募る 住民ボランティアによる

自治会運営の お悩み解決に向けた 活動の「^{勘所}カンドコロ!」

夏祭りなどの行事の際には、仲の良いグループに声を掛け、役割を分担してもらっています。ボランティアですが、仲良し同士なので楽しみながら参加してもらえ、翌年も継続してくれたり、その人と普段お付き合いがある方も顔を出してくれたりします。また、近くのコンビニで買い出しすることで顔馴染みになり、独居高齢者など定期的に来ていた人がふいに来なくなると町内会へ連絡をくれるなど見守りにもつながっています。

田子西町内会 川名 清 会長

自治会プロフィール

平成26年4月に田子西復興公営住宅が完成したのを機に、同年10月に田子西町内が発足しました。現在153世帯で構成されています。

真似したくなるポイントはココ!

仲良しグループ単位への呼びかけで
それぞれで行事の楽しみ方を知ってもらう

基礎①の お答え

外部の人も気軽に参加
できることを関係先にも
伝え、無理強いはしない

自治会運営の お悩み解決に向けた 活動の「^{勘所}カンドコロ!」

現在、お茶のみである「カフェランラン」のほかに親子で参加する「あすと第二食堂」など様々な行事を行っています。カフェなどの参加者は口コミで募っており、住民以外にも近隣の方々も参加しています。無理に人数を増やそうとせず、参加希望者が自由に集まってきたように関係先や訪問された方に声掛けするときもひと声添えます。

あすと長町第二市営住宅住民の会 薄田 榮一 会長

自治会プロフィール

平成27年4月にあすと長町第二復興公営住宅が完成し、7月に世話人会が発足、その後平成28年4月に住民の会が発足しました。

真似したくなるポイントはココ!

集会所を訪れる内外の人全員にカフェを紹介。
外部の人も立ち寄れるオープンな場づくり

基礎②

転入して来られた人が
町内に馴染んでない。
関心を持たれない。

新しく転居してきた人にとっては、地域の歴史も知らないし、思い入れがないという人も少なくない。どうしたら
関心を持つてもらえる?



地区のことまとめた冊子などで“まち”をPR

町の印象は、町を良くしたいという人たちの奮闘の歴史。ガイドブックを通して町を知つてもうう

自治会運営のお悩み解決に向けた＼勘所／ 活動の「カンドコロ！」

転居されて来られた方には、地区の歴史や風土などをまとめたガイドブックを見てもらっています。片平地区の連合組織である、まちづくり会で作成した冊子です。片平は住民皆の協働でこれまで問題解決にあたってきた歴史があります。問題の洗い出しのために問題集約委員会を立ち上げ、住民アンケートも取りました。マンションの建設予定地にあった防空壕の安全確保を建設会社等にも求め、マンションの住民さんからも自治会の意義を理解してもらうことができました。また、仙台都市総合研究機構から提案を受け、空き地を活用した“まちなか農園”を行っています。交流のきっかけにもなります。

片平地区連合町内会 今野 均 会長

自治会プロフィール

昭和41年に花壇大手町町内会が発足しました。その後昭和58年に片平地区町内会長連絡協議会が発足、平成13年に片平地区町内会連合会に改組しました。連合町内会にPTAや体育振興会などを加えて、平成25年に片平まちづくり会が発足しました。

真似したくなるポイントはココ！

地域を知るための
ガイドブックで関心度 UP

地域理解が進めば、
交流の場にも関心を持ってくれる



基礎③

行事をしたいが
お金がない。

資金調達の方法は？



集会所などの備品や役員会の運営費に加えて行事まで全て自治会費で切り盛りするのは大変。値上げもしづらい、いつまでも助成金があるとも思えない。やりくりの方法は？

資源回収で活動費の一部に充てる

段ボールや新聞などの紙ゴミを町内にある倉庫に集めて一括して業者へ。子ども会や敬老会の活動費に充てることも

自治会運営のお悩み解決に向けた＼勘所／ 活動の「カンドコロ！」

紙ゴミの資源回収を行っています。平成28年に近所にあった仮設住宅の解体に際して、倉庫を譲り受け、その活用法を模索する中で、市から聞いた事例を参考に資源回収を始めました。この活動から得られた資金は、敬老会などの町内会活動の一部に充てています。自動販売機の集会所内への設置等も検討しましたが、サークル活動中の時は使用しづらいという声もあったので採用しませんでした。また、行事など必要に応じてなるべく近隣の業者さんにお願いし、搬入など負担の大きい部分で協力してもらえる関係性を構築しています。目に見える、見えない両方の資源が大事。

荒井東町内会 小野 款 会長

自治会プロフィール

平成25年に荒井東復興公営住宅が完成し、その後入居者が入ってきたことをきっかけに荒井東町内会が発足しました。

真似したくなるポイントはココ！

各種助成金に加えて
資源回収による独自収入も確保

近隣の業者さんと仲良くなって
お手伝いしてもらう



体制 ④

自治会未加入者が少なくない。自治会の意義を分かつてもらえない。



住民全員が気持ちよく生活できるようにゴミ出しのルール決めから公園などの公共スペースの清掃まで…自治会活動を理解してもらえるにはどうしたらよい？

体制 5

役員負担が大きく、
疲弊している。



役員は町内会行事の運営に追われるが多く、複数業務を掛け持ちしている人もいて、このままでは役員のなり手を他の人にも強くお薦めできない

自治会運営の お悩み解決に向けた 活動の「カンドコロ!」^{勧所}

古くからの住民が多く、昔の写真や映像が多く残っています。住民同士の交流機会のひとつとして、昔の写真や映像を一本の作品として編集し鑑賞会を行いました。毎年作品内容を変えて行っており、昔を知らない若者は興味を示してくれて、高齢者は会話のきっかけができるなど非常に好評です。住民同士をつなげる機会づくりを通して自治会の意義を感じてもらえた。

八日町2区協力会 村上 健一 会長

自治会プロフィール

気仙沼市内でも比較的歴史のある地区で、約45世帯(復興住宅10世帯)ほどが生活。高齢化率が高いが、住民同士の古くからのつながりが強い。

真似したくなるポイントはココ!

共通の話題づくりを行う。
工夫次第で行事への参加を高めることが可能。

体制④のお答え

「見える化」を!
に町内会活動の「見え
る化」を!

自治会運営の お悩み解決に向けた 活動の「カンドコロ!」^{勧所}

錦町団南会では全世帯が町内会に加入しています。転居してきた世帯には会長自ら町内会加入の意義を説明し、加入を促しています。さらに、町内会活動の見える化を徹底しており、総会や役員会の議事録を全戸配布してオープンにすることで会費が何に使われているか安心してもらいます。また、催しなどで会員同士が顔を合わせる機会を設けています。

錦町団南会 永野 久喜 会長

自治会プロフィール

昭和56年4月1日に膳部自治会より独立する形で誕生しました。その後、平成26年に「錦町災害公営住宅」が出来、新たに40世帯が入会し、世帯数は223世帯です。

真似したくなるポイントはココ!

会議資料の全戸配布など徹底した“見える化”。
会員同士が顔を合わせる機会を増やす。

体制④のお答え

共通の話題づくりを!
**昔の写真・映像の
観賞会を実施。**

自治会に部会制度導入!
役員の負担軽減と役割
分担の明確化!

自治会運営の お悩み解決に向けた 活動の「カンドコロ!」^{勧所}

つばめの杜西区は、いちからつくる自治会運営という新市街地の利点を生かし、自治会行事の内容に合わせて、3部会（環境美化・防犯防災・文化交流）を設置。それにより、役割分担が明確になり、負担軽減になりました。また、各部会で事業内容の詳細を検討することにより、役員会の開催時間の短縮にもつながっていきました。

つばめの杜西区自治会 坂根 守 会長

自治会プロフィール

平成27年に自治会の前身「新山下ときわ会」が活動を始め、平成29年度に「つばめの杜西区」として行政区に位置付けられ現在に至る

真似したくなるポイントはココ!

権限を部会に持たせること。役員会で報告すること。
役員会でひっくり返さないこと。

体制⑤の お答え

協議・実行した
実行委員会で
夏祭り等の行事を

自治会運営の お悩み解決に向けた 活動の「カンドコロ!」^{勧所}

急激に人口減少に見まわれた地区で、初めての夏祭り。地域が一丸となって実施する方法として、若手を中心となって実行委員会を開き、いちから実施内容を決め、買出しもしていました。その高齢者にはない行動力・柔軟な発想が發揮されたことで役員以外の住民も取り込むことができ、負担の軽減につながっています。

中浜区自治会 島田 敏光 会長

自治会プロフィール

自治会設立は昭和63年4月。震災前は314世帯あり震災で9割の世帯数減となり、自治会運営の再生に取り組んだ地区。

真似したくなるポイントはココ!

組織が決めたことだと義務と感じてしまう。
有志の実行委員会だと自主性が生まれる。

体制⑥

行事の整理ができない。
行事を減らしたいが
できない。



昔と人口が全然違うのに、昔と同じ行事を、同じ数だけ実施するのは無理がある。でも、自分の代で終わらせるのは抵抗があつてできない。どうしたらよい?

手間と効果を判断し、
思ったほどの
効果がなければ中止

自治会運営の
お悩み解決に向けた 活動の「^{勘所}カンドコロ!」

総会、敷地内清掃、避難訓練、夏まつり、芋煮会、クリスマス会が主な行事となっています。その他に餅つきなどをしていましたが、手間がかかる割に効果が小さかったために1回限りでした。行事をやらなければいけないものとやれればやりたいものに分け、運営状況を見ながら、慣習化せずに都度、行事を見直していくことが重要です。

清水沢東住宅運営委員会 坂口 節子 会長

自治会プロフィール

平成28年10月に災害公営住宅の完成を機に、翌年運営委員会を設立しました。平成30年4月に清水沢東町内会として発足しました。

真似したくなるポイントはココ!

まずはやってみて、効果がなさそうならば中止。
手の回る範囲で行事を行うことが大事。

自治会運営の
お悩み解決に向けた 活動の「^{勘所}カンドコロ!」

従来の町内会や自治会とは異なる住宅管理を中心とした組織を立ち上げ、お祭りなどのコミュニティ活動は無理をしない、できる範囲で実施しよう、という認識を共有して組織を立ち上げています。その結果、全世帯加入で設立できました。イベントはその年の状況に応じて無理のない範囲で開催する、慣習化(義務化)させないことを前提としています。

錦町東住宅会 松田 美和子 会長

自治会プロフィール

平成29年3月に錦町東住宅が落成したのに伴い、令和元年9月に錦町東住宅会が発足しました。現在70世帯が加入しています。

真似したくなるポイントはココ!

義務化は無理を生むし、負担になる。
行事が義務ではないことを規約に明記・共有する

体 制 ⑦

役員の高齢化・長期化問題。
一度受けたら簡単には
抜けられないと思われている



地域全体で進む高齢化と次期主力世代の再雇用等により、任期が来てもなかなか交代できない。どうしたら、上手なバトンタッチができるの?